

食道癌手術における ICG 蛍光法を用いた再建法の有用性の検討

1. 研究の対象

2011 年から 2017 年に当院で食道癌手術において ICG 蛍光法による血流分布評価を用いた再建を受けられた方

2. 研究目的・方法

食道癌手術における再建後の縫合不全は重篤な合併症であり、在院日数や医療費の増加のみならず、長期予後にも影響を与える可能性が指摘されています。

再建の成否は再建臓器の血流に大きく依存しており、ICG 蛍光法により再建臓器の血流分布の視覚的把握ができれば縫合不全の減少につながると考えられます。

そこで当院で施行された食道癌手術における ICG 蛍光法による血流分布の把握を用いた再建法の治療成績を検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部 外科 1

TEL：088-880-2370

研究責任者：高知大学大学院医学系研究科外科 1 講座 北川 博之